

でんち

社団法人 電池工業会

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011

東京都港区芝公園三丁目5番8号

機械振興会館内

電話 (03) 3434-0261 (代)

ホームページ <http://www.baj.or.jp/>

ご意見・お問い合わせ <http://www.baj.or.jp/contact/>

発行人 中谷謙助

平成23年8月1日

「名古屋でんちフェスタ2011」を開催

7月16日（土）、名古屋市科学館において「名古屋でんちフェスタ2011」を開催しました。名古屋地区での開催は今回が初めてで、終日会場は多くの来場者で賑わいました。

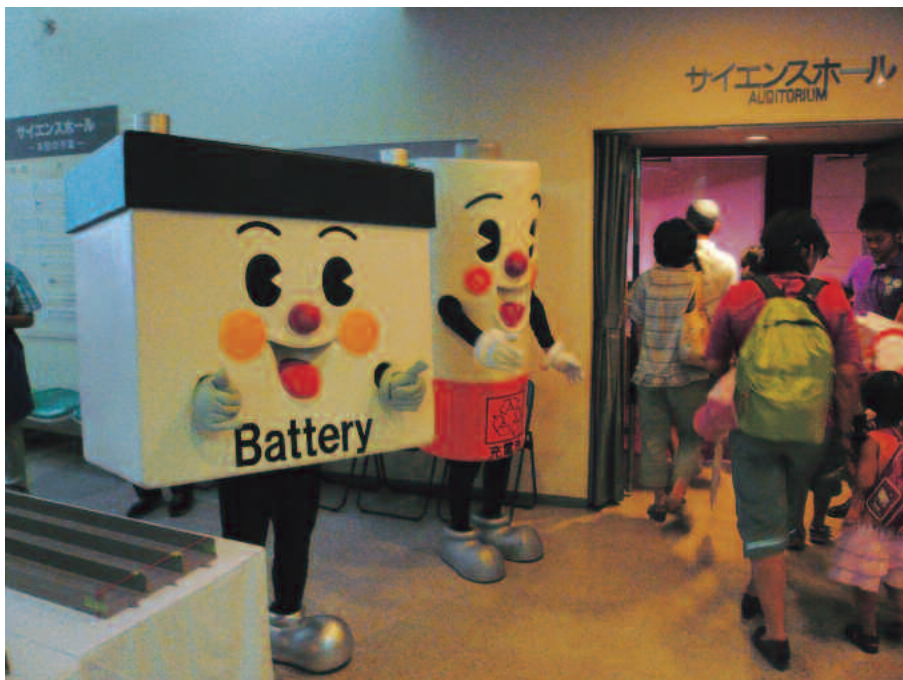
（社）電池工業会は、7月16日（土）に名古屋市科学館（名古屋市中区栄2-17-1）で「名古屋でんちフェスタ2011」を開催しました。

この催しは、11月11日の電池の日前後に開催している「でんちフェスタ」の名古屋版で、東京地区、関西地区について3か所目の開催になります。名古屋地区での開催は今回が初めて。

「名古屋でんちフェスタ2011」では、①でんち天才クイズ ②手づくり乾電池教室 ③でんち恐竜レース ④みらいのでんちアイデアコンテスト応募コ

ーナー ⑤電池に関する説明パネルの展示 ⑥クイズラリー 等が行われました。

「でんち天才クイズ」はステージを中心に展開され、乾電池くんやコロんちゃん（CBCテレビのマスコットキャラクター）が登場したり、電池に関するクイズを参加した子ども全員が○×で答えたり、クイズの答えを実験で確かめたり、一問一問に参加した子どもたちは一喜一憂しました。また、最後まで勝ち残った正解者には天才賞や秀才賞などの賞品が用意されていました。



「手づくり乾電池教室」は、手づくり乾電池キットを参加者1人1人が自分で組み立て、氏名と日付を入れたオリジナルラベルをまいて、世界に一つしかない自分だけの乾電池を完成させることができました。

また、「でんち恐竜レース」では恐竜の形をしたおもちゃでそれぞれが作った乾電池の性能を競うなど、家族そろって楽しみました。

クイズラリーは、電池に関する問題に会場のパネルなどを見て回って答えるもので、電池についての

知識を試す上でも、新たに学ぶ上でも、楽しい内容となっていました。

開催当日、会場は多くの来場者で賑わい、また開催時間内にCBCラジオで生中継されるなど、新聞やラジオにも取り上げられました。

今回の「名古屋でんちフェスタ2011」に続いて、今後は9月に「関西でんちフェスタ」(大阪)を、11月には「でんちフェスタ」(東京)の開催を予定しています。



平成23年度第1回一次電池部会開催

平成23年6月22日、機械振興会館において須本部長（日立マクセルエナジー（株））を議長に、平成23年度第1回一次電池部会を開催した。部長挨拶および専務理事挨拶に続き、事務局報告、各委員会からの活動状況報告があった。



1. 須本部長挨拶

東日本大震災から早3か月が経過したが、回復までにはまだまだ時間がかかりそうである。工業会活動が復興の一助になればと思っている。電力会社から節電要求が出ており東京電力管内は罰則規定までであるようだ。政府の手際よい対応が求められている。節電の方法として各家庭では冷蔵庫の横に物を置かないことも効果があるようだ。各家庭を含めそれぞれの節電が求められている。何とかこの難局を乗り越えていきたい。

2. 中谷専務理事挨拶

平成22年度は、東日本大震災の影響で3月の電池工業会会議はすべてが中止となった。東日本大震災の直後は、電池工業会として乾電池200万個や懐中電灯

など、緊急支援物資として会員各社に協力をお願いし供出した。各社の協力に改めてお礼を申し上げたい。また、震災時の必需品として電池や懐中電灯の役割の大きさを痛感した次第だ。

3. 事務局報告

- ・平成23年4月の昨年同期比は、マンガン乾電池が159%、アルカリマンガン乾電池が142%と大幅に伸張した。一次電池合計も、前年比数量で101%、金額で116%であった。一方、二次電池合計は、前年比数量で88%、金額で84%と大幅に減少した。
- ・平成23年度の一次電池部会の委員登録が各社から報告があり決定した。また、電池工業会の組織図で次世代蓄電池委員会が小形二次電池部会の委員会としての活動に変更になった。

4. 委員会報告

(1) 広報総合委員会 (高尾委員長)

①展示会・イベント関係

- ・名古屋でんちフェスタは、7月16日（土）に名古屋市科学館（名古屋市中区）で開催予定。今回が名古屋地区での初めての開催となる。
- ・関西でんちフェスタは、9月10日（土）～11日（日）にキッズプラザ大阪（大阪市北区）で開催予定。関西地区では4回目の開催となる。
- ・でんちフェスタは、11月5日（土）に日本科学未来館（東京都江東区）で開催予定。東京地区では12回目の開催となる。

②キャンペーン・PR活動関係

- ・電池PRキャンペーンは、従来のテーマ「電池は正しく使いましょう」に加え「電池を使い終わったら・・・」を含めて、今年度はPRキャンペーンを展開する。
- ・本年度の「手づくり乾電池教室」は、既に公募のみで27か所の応募があった。7月～1月にかけて展開を予定している。

③情報発信関係

- ・電池教室やイベントで用いている啓発ビデオを改訂版（2011年版）に変更した。より子どもに分かりやすい内容になった。

(2) 器具委員会 (大井委員長)

- ・電池工業会規格「SBA S 1601携帯電灯」について、現状の電池工業会規格をもとにANSIの内容を盛り込むことで修正案を検討。担当を分担して内容の改訂を進めている。
- ・携帯電灯に関するPR内容をまとめた。電池工業会ホームページに新規に掲載を予定している。

(3) 資材委員会 (宮崎委員長)

- ・電池主要原材料の動向調査を継続実施。今後の需要予測と動向について検討した。
- ・電池主要原材料のうち1原材料の国内使用実績、今後の伸び率、輸入関税の現状について調査、検討している。

(4) 業務委員会 (平石委員長)

- ・一次電池の機械統計、自主統計データの整理および分析を実施。
- ・国内需要予測の検討およびホームページ上への掲載。
- ・消費者向けの「電池適正表示基準」をまとめ、発行した。引き続き、会員への啓発と見直し等を行っていく。

(5) PL委員会 (兼城委員長)

- ・前年度の事件事例の集計を実施した。
- ・電池工業会ホームページのPL委員会関係内容の見直しを実施。内容を改訂する。
- ・他業界との意見交換や関係団体との意見交換も継続実施していく。

(6) 技術委員会 (都築委員長)

- ・JIS C 8500（一次電池通則）の改正審議は、4月に改正原案をまとめた。今後、10月に本委員会を開催し審議する予定。2012年下期発行の予定。
- ・JIS C 8515（一次電池個別製品仕様）の内容について、上期中に委員会内審議をする予定。10月に本委員会を開催し審議する予定。2012年下期発行の予定。
- ・IEC60086の改正審議は、TC35ダブリン会議の内容を受け、審議内容の確認を行った。
- ・IEC62281（リチウム電池の輸送に関する安全性）は5月のダブリン会議の結果を受け、内容の検討を行った。

(7) 国際環境規制総合委員会 (江川委員長)

- ・世界の電池環境規制に関する冊子追補版は、各地域の新たな内容を盛り込むことで作業を進めている。7月末をめどに原稿提出を行う。
- ・一次電池のEU容量表示は、電池の容量表示に関する規格化検討依頼の正式文書が出された。今後内容の検討を進める。
- ・カナダ、中国、オーストラリア、ベトナム、韓国、パラグアイ、アルゼンチン、中南米、等の最近の動向について報告した。

以上

「日本乾電池工業会」の創立が昭和23年（1948年）5月7日と前号で記載しましたが、ほぼ同時期に「日本携帯電灯工業会」が正式に発足しました。昔「電池」というと乾電池の入った懐中電灯を意味していた時代が長く続きましたが、このように乾電池と携帯電灯とは全く一体感をもって両工業は発展してきました。

携帯電灯工業における組合化の動きは、乾電池工業の組合化の動きとはほぼ歩調を合わせる形で進められてきましたが、日本乾電池工業会の歴史において乾電池工業会の評議員として工業会活動に参加が明記されるようになったのは、昭和20年の「日本乾電池工業統制組合」への参加でした。

昭和22年5月15日には、「日本携帯電灯工業組合」の通常総会が開催されましたが、この総会では全国の単一組織を解散して地方組織として改組することを決議しています。そして関東地区では同年6月3日に、東海地区は同年6月6日に、関西地区は同年6月15日に、それぞれの地方組織を立ち上げました。そして、この地方3組合の中央連絡機関として同年6月25日に「全国携帯電灯工業組合協議会」を設け活動するようになりました。初代の代表には東京組合代表の北村道太郎が就任しました。全国

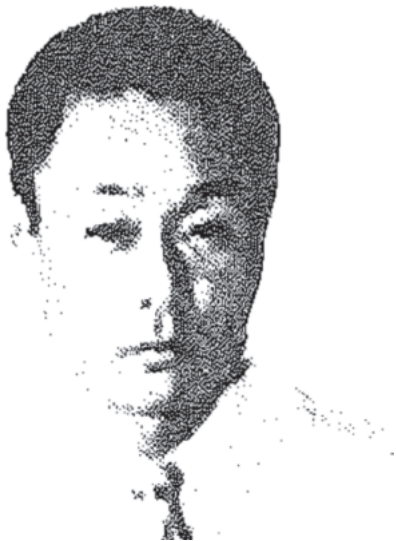
携帯電灯工業組合協議会は親睦団体として活動を行っていました。携帯電灯工業の企業は中小の企業が多く、第二次世界大戦直後には参加申し込みは48社にも達しましたが、その後は脱会する企業も多く、配給制度の解消に伴い脱会する企業は半数に及びました。

「日本携帯電灯工業会」の正式発足は昭和23年3月31日の創立総会になります。それまでの全国携帯電灯工業協議会は、関東支部が湯浅電器の北村道太郎、東海支部が興国産業の舟橋金造、関西支部は松下電器産業の松下正治、がそれぞれ支部長を務めていました。

その中で、設立総会で初代理事長に推薦されたのは、関西支部長の松下正治でした。そして、日本携帯電灯工業会の創立とともに、従来の協議会は発展的解消ということになっています。

昭和25年10月の定期総会では、松下正治の理事長辞任に伴いニチニチ電器製作所（のちの青木電器工業）の青木神木が新たに理事長に就任しました。

日本携帯電灯工業会は、その後も日本乾電池工業会と一体感を持った活動を続け、工業会事務所も日本乾電池工業会と同じビルに存在するなど密接な関係をもって活動していきました。



初代理事長 松下正治
(昭和23年3月～昭和25年10月)



2代理事長 青木神木
(昭和25年10月～昭和48年3月)

平成23年 7月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議、他	15日(金)	広報総合委員会	名古屋でんちフェスタ打ち合わせ、関西でんちフェスタ審議、電池くんPRキャンペーン審議、電池教室予定確認、等。
	16日(土)	名古屋でんちフェスタ	名古屋市科学館で「でんちフェスタ」を実施。多くの家族連れで賑わった。
	20日(水)	166回講習実施委員会	北海道にて開催した蓄電池設備整備資格者講習の修了考査につき、可否を判定。
	28日(木)	国際環境規制総合委員会	海外環境規制に関する情報確認。
二次電池部会	6日(水)	資材委員会	BAJリサイクル自主取組審議(意見交換)。
	6日(水)	据置アルカリ分科会	IEC、SBA改正審議、他。
	7日(木)	特リ委員会	BAJ自主取組自動車用電池のリサイクルスキーム審議。
	8日(金)	自動車鉛分科会	IEC、SBA改正審議、他。
	8日(金)	産業用電池リサイクル委員会	産業用電池リサイクルスキームの検討。
	13日(水)	特リ委員会	BAJ自主取組自動車用電池のリサイクルスキーム審議。
	13日(水)	リサイクラー会議	リサイクル回収・解体に関する審議、他。
	14日(木)	業務分科会	実績投票、他。
	14日(木)	鉛亜鉛協会との交流会	需要予測の意見交換。
	15日(金)	用語分科会	IEC、SBA改正審議、他。
	20日(水)	特委員会	リサイクル会議の課題審議
	20日(水)	自動車電池委員会	再生電池・リサイクルシステム説明等審議。
	20日(水)	産業用電池統計分科会	産業用電池統計数値の確認。
	21日(木)	産業用電池技術サービス分科会	産業電池リーフレット・再講習テキスト見直し審議。
	21日(木)	資材委員会	リサイクルスキームの運営審議、他。
	21日(木)	小形鉛分科会	IEC、SBA改正審議、他。
	22日(金)	PL自技さ合同分科会	平成23年度自主統計審議、他。
	22日(金)	充電器分科会	「浮動充電用整流装置の設計集」作成審議、「据置蓄電池キュービクル」改正審議。
	23日(土)	資材分科会	電池用部材の検討、他。
	27日(水)	特リ委員会	BAJ自主取組自動車用電池のリサイクルスキーム審議。
27日(水)	監査報告会(5s-4)	リサイクルの監査。	
小形二次電池部会	1日(金)	国際電池規格委員会	IEC、UL等国際規格についての審議。
	4日(月)	据置LIB分科会	SBA規格審議。
	5日(火)	据置LIB分科会	SBA規格審議。
	6日(水)	リチウム二次分科会	JISC8708改正審議、IEC・ANSI対応(容量表示についての条件審議)
	7日(木)	据置LIB分科会	SBA規格審議。
	8日(金)	LIB安全性技術員会	内部短絡に対する安全性試験の検討。
	19日(火)	国際電池輸送委員会	米国輸送規制対応、リチウム電池輸送の手引書改訂の審議。
	20日(水)	ニカド・ニッケル水素分科会	IEC61951-1・2の修正提案審議、容量表示条件審議。
	21日(木)	据置LIB分科会	SBA規格審議。
	22日(金)	業務委員会	6月の販売実績及び動態確認。
	22日(金)	技術委員会 TF小委員会	CD内容の審議。
	26日(火)	据置LIB分科会	SBA規格審議、IEC62619試験方法の確立(JSCA対応)審議。
	29日(金)	リチウム二次分科会	JISC8708の改正提案審議、容量表示条件審議。
29日(金)	次世代蓄電池委員会	法規制対応審議。	
一次電池部会	14日(木)	リチウム小委員会	中国GB規格、米国輸送規則対応検討、他。
	15日(金)	規格小委員会	JIS C 8500、JIS C 8515、IEC60086シリーズ改正審議。
	23、24日	資材委員会	電池主要原材料の動向と関税の現状について討議。
	29日(金)	器具委員会	携帯電灯規格における積分球測定について検討。

“くり返し使うライフスタイル”を提案する「eneloop universe products」から
 携帯端末の緊急電源として最適な高容量携帯用電源
 「eneloop mobile booster」の新商品を発売

三洋電機株式会社

三洋電機株式会社は、“くり返し使うライフスタイル”を提案する充電電池「eneloop（エネループ）」のコンセプトが広がる商品群「eneloop universe products（エネループユニバースプロダクツ）」の新商品として、従来品より使い易く進化させたUSB出力付リチウムイオンバッテリー「eneloop mobile booster（エネループモバイルブースター）」を9月8日に発売します。

この「eneloop mobile booster」は、携帯電話やスマートフォンなどの、突然の電池切れ時に充電できるのはもちろんのこと、USBで駆動するさまざまな機器を動かすことができます※1。

三洋電機は、“くり返し使うライフスタイル”の提案により、暮らしを変える商品がより便利で身近なものになるよう、今後も「eneloop universe products」の世界を拡大すると共に、ユーザーからの声を取り入れて進化させていきます。

※1 機器によっては充電できない、或いは、駆動できない場合があります。



KBC-L54Dでタブレット端末を充電している様子

品名	USB出力付リチウムイオンバッテリー	
品番	KBC-L54D	KBC-L27D
愛称	eneloop mobile booster	
メーカー希望小売価格(税込)	オープン	
発売日	2011年9月8日	

■ 「eneloop」とは

「eneloop」は、“エネルギー（energy）の循環（loop）”をコンセプトにした商品です。2005年11月の発売以来、「あらかじめ充電済みなので買ってすぐ使える」という乾電池に匹敵する使い勝手の良さと、充電すればくり返し使え、使い終わった後にはリサイクルが可能という、経済性と環境配慮に対して、市場からも高い評価をいただいております。グローバルで60カ国以上に販売し、2011年5月末時点で、累計出荷数量が1億7千万個を突破しました。

また、2006年のソーラー充電器「eneloop solar

charger」、充電式カイロ「eneloop kairo」から始まった「eneloop」のコンセプトが広がる商品群「eneloop universe products」を随時展開しています。2007年からはUSB出力により携帯電話など各種モバイル機器への補助電源・緊急充電用商品として「eneloop mobile booster」シリーズを展開しております。特に前年比120%以上の勢いで出荷台数が伸長しているスマートフォンにおいては、高性能化やアプリの利用によって電池がすぐ無くなるケースもあり、「eneloop mobile booster」への注目は高まっています。

【eneloop mobile booster】の特長

1. 内蔵リチウムイオン電池を従来品から※2約8%高容量化、より長時間の出力を実現

高容量リチウムイオン電池5400mAh（KBC-L54D）／2700mAh（KBC-L27D）を搭載。本体に内蔵したリチウムイオン電池の電池容量を従来からそれぞれ約8%高容量化することで、高性能化するスマートフォンやタブレット端末に、より長時間出力することが可能になりました。

2. 従来品※3比1.5倍の高出力1.5A※4（KBC-L54D）で、機器への充電時間を短縮

現在市場で活況を呈しているスマートフォンやタブレット端末は、一般的に携帯電話に比べ要求電流が大きな機器です。KBC-L27Dは、従来品（KBC-L3AS）の2倍にあたる1.0A（アンペア）の出力を実現し、高出力が要求されるスマートフォンなどを効率よく、短時間で充電することを可能にしました。また、KBC-

L54Dは、従来品（KBC-L2BS）の1.5倍にあたる1.5A（アンペア）の出力を実現。こちらはより大きな電流を求められるタブレット端末などの機器を効率よく、短時間で充電することが出来ます。

3. ACアダプターとUSB端子からの2WAY充電と、分かりやすい3色LEDで電池残量表示

本体への充電は、専用ACアダプターに加え、付属のUSBコードを用いてパソコンのUSB端子からも充電が可能です。付属のUSBコードは「USB-A型 - USB-micro-B型」となっており、本機の充電だけでなく、USB-micro-B型の充電端子を持つスマートフォンへの充電出力コードとしてもお使い頂けます※5。

また、本体に内蔵充電電池の残量表示には、分かりやすい3色LED（グリーン、オレンジ、レッド）を搭載し、使い勝手の向上を図りました。



KBC-L54Dの3色LEDの様子

仕様

品番	KBC-L54D	KBC-L27D
セット内容	<ul style="list-style-type: none"> ・USB出力付リチウムイオンバッテリー 本体 KBC-L54D×1台 ・USBコード×1本 (USB-A型 - USB-micro-B型) ・専用ACアダプター×1台 	<ul style="list-style-type: none"> ・USB出力付リチウムイオンバッテリー 本体 KBC-L27D×1台 ・USBコード×1本 (USB-A型 - USB-micro-B型) ・専用ACアダプター×1台
出力端子	USB-A型×2口	USB-A型
出力電圧	5.0V	
最大出力電流	2口合計:1.5A、1口:Max 1.5A	Max. 1.0A
出力時間※6	5.0V／500mA:約5時間(1口出力時) 5.0V／500mA:約2.5時間(2口出力時) 5.0V／1.5A:約2時間(1口出力時)	5.0V／500mA:約2.5時間 5.0V／1.0A:約1.5時間
充電端子	USB-micro-B型	
充電時間※7	ACアダプター:約7時間 USB:約14時間	ACアダプター:約3.5時間 USB:約7時間
寸法	W70×D22×H62mm(コード部除く)	W70×D22×H39mm(コード部除く)
質量	約142g	約78g
内蔵電池	専用高容量リチウムイオン電池	

※2 KBC-L54DはKBC-L2BSに対して、KBC-L27DはKBC-L3ASに対して。

※3 KBC-L2BSに対して。

※4 1口使用時の出力です。

※5 機器側の設計によっては対応しないものも存在します。

※6 内蔵充電電池が満充電時の出力時間の目安で、使用条件により異なります。

※7 使い切った内蔵充電電池を満充電にする場合の目安。充電時間は電池の残量や周囲温度によって変化します。

5月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2011年5月）

単位：数量－千個、金額－百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

（2009年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「二輪用」が含まれました）

（2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました）

（2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました）

（2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました）

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	418,457	45,030	101%	82%	2,135,853	255,573	97%	86%
一次電池計	278,985	9,187	110%	120%	1,410,782	44,795	101%	100%
アルカリ乾電池計	111,532	4,743	131%	145%	578,027	23,163	126%	115%
単 三	59,741	2,088	121%	126%	327,102	11,288	124%	113%
単 四	26,705	796	114%	109%	147,628	4,604	127%	100%
その他	25,086	1,859	204%	210%	103,297	7,271	134%	131%
酸化銀電池	68,484	1,018	102%	129%	331,494	4,458	94%	106%
リチウム電池	77,795	2,686	86%	81%	410,389	14,644	81%	79%
その他の乾電池	21,174	740	183%	260%	90,872	2,530	112%	125%
二次電池計	139,472	35,843	86%	76%	725,071	210,778	90%	84%
鉛電池計	1,863	8,969	92%	102%	11,536	59,636	93%	106%
自動車用	1,223	5,020	87%	99%	8,127	33,848	91%	105%
その他の鉛蓄電池	640	3,949	105%	106%	3,409	25,788	99%	107%
アルカリ蓄電池計	44,718	7,720	86%	58%	223,918	47,244	81%	63%
ニッケル水素	26,762	5,458	78%	50%	149,534	36,749	79%	58%
その他のアルカリ蓄電池	17,956	2,262	102%	101%	74,384	10,495	86%	88%
リチウムイオン蓄電池	92,891	19,154	86%	75%	489,617	103,898	94%	86%

5月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2011年5月）

単位：数量－千個、金額－百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	197,294	22,707	84%	80%	1,035,457	121,346	86%	87%
一次電池計	83,801	1,699	87%	84%	454,544	9,160	87%	84%
マンガン	897	23	788%	317%	4,779	126	148%	149%
アルカリ	10,088	150	65%	67%	79,533	1,179	95%	80%
酸化銀	34,920	461	98%	119%	184,446	2,190	87%	99%
リチウム	36,903	976	84%	73%	178,998	5,319	83%	78%
空気亜鉛	959	10	71%	49%	6,618	71	98%	69%
その他の一次	33	79	31%	171%	171	275	15%	101%
二次電池計	113,493	21,009	82%	80%	580,913	112,186	85%	87%
鉛蓄電池	107	548	102%	113%	647	3,227	99%	121%
ニカド	14,861	1,324	102%	93%	58,646	5,341	83%	80%
ニッケル鉄	0	0	-	-	0	0	0%	0%
ニッケル水素	11,690	2,766	80%	77%	62,499	17,706	86%	93%
リチウムイオン	82,307	14,935	81%	77%	435,761	77,475	89%	83%
その他の二次	4,528	1,437	62%	119%	23,360	8,436	49%	123%
全電池合計（輸 入）	234,605	9,904	304%	132%	790,769	43,265	189%	114%
一次電池計	227,705	3,397	328%	385%	753,530	10,605	196%	213%
マンガン	53,336	770	366%	520%	176,260	2,191	179%	229%
アルカリ	159,298	2,282	353%	464%	509,161	6,687	226%	282%
酸化銀	303	6	92%	56%	2,154	43	98%	46%
リチウム	8,157	237	110%	124%	39,397	1,113	93%	98%
空気亜鉛	3,822	61	252%	203%	15,532	239	172%	145%
その他の一次	2,788	42	724%	449%	11,027	333	140%	129%
二次電池計	6,899	6,507	90%	99%	37,239	32,660	110%	99%
鉛蓄電池	753	2,536	125%	134%	3,644	12,273	114%	118%
ニカド	530	185	86%	69%	2,658	897	86%	76%
ニッケル鉄	53	7	1963%	811%	63	11	330%	94%
その他の二次	5,563	3,780	87%	85%	30,874	19,478	112%	90%